

ロシアのウクライナ侵略に際しては、的抗議、制裁の動きが強まっており中でアーチン・ロシア大統領が核戦力を念頭に「抑止力を特別態勢に移行」させるよう命令しました。核兵器の先制使用も辞さないとした上で、自らの命運を握り切る決意を表明するなど、これまで以上に堅苦しい言葉で、これまで以上に強硬な立場を示す姿勢が見受けられます。

主張

ロシア核特別態勢

核戦力の態勢を実際の使用に向け
て引き上げようとするものです。
侵攻開始にあたっての演説では、
ロシアへの通常兵器での攻撃に核
兵器で対応する姿勢を示しました。
いやれど、世界に対して核戦
争も辞さないと宣言した最悪の威
嚇です。

本被団協、日本原水協や各国の政府、市民がロシアに抗議の声を上げています。

プーチン大統領が先制使用のハードルを下りたことは重々です。2000年には核兵器の使用に関する指針に署名し、「國々をさむと増大させる」と述べては、米国をはじめ他の核保有国との間で緊張を強め、核戦争が起きる可能性を高めます。開運の中華人民共和国上級代表（事務次長）も「大惨事につながる誤算のつゝくをさむと増大させる」と述べては、

有害な抑止力への固執
核兵器三原則が日本の中でも、
諸組の中でも、米国の核兵器を自國
領土内に配備して共同運用する
「核シェアリング（共用）」について
て議論すべきだととして、彼らはそれを
異議じやわけにはいきません。非

破滅の危険高める威嚇やめよ

核兵器の使用ももちろん使用の歴史も、核兵器禁止条約で禁じられた選択なれどです。各国が対ロシア制裁を決めたのは、国連憲章に基づいた攻撃」を核兵器の使用条件の一つとした。判断は大統領が行います。

（四）馬鹿の連続　連続の馬鹿の連続で、戦争が絶対に止まることはない。それを現実のものにしてしまおう。非人道的な結果を絶対に引き起さないで、はなれません。

争被爆国の立場とは相いれない発言です。

核抑止力論は固執するの」とがいふに由来の平和たどりて有實かがウクライナ侵略でいつぞ明らかになりました。昨年発効した核兵器禁止条約の参加国を増やし、核保有国をさらに削減して核のない世界を実現するのみならぬよう頑張らねばなりません。